

# 稲田の子

令和7年

1月17日 発行

文責 校長 鈴木 宏和



時を守り 場を清め 礼を正し

物事に向き合う 稲田っ子

## 3学期が始まりました！

1月10日（金）から3学期が始まりました。

冬休み中は、大きな怪我や交通事故の連絡もなく、子どもたちも安全に過ごすことができたのは何よりです。

始業式では、3人の児童による、冬休みの思い出と3学期の目標についての発表がありました。例年よりも短い冬休みでしたが、有意義に過ごせていたようで、大変嬉しく思っています。



冬休みの思い出と3学期の目標について発表  
(低・中・高1名の代表者)

3学期は、まとめの学期です。今の学年の学習内容をしっかりと定着させ、また、落ち着いた生活態度を身に付けさせ、進級・進学させたいと考えています。

ご家庭でも、ご協力の程よろしくお願ひします。

### 【スケート授業について】

昨年1月17日に学校のスケートリンクをオープンすることができましたが、今年は雪が少なく、スケートリンク完成の目処が全く立っていません。

降雪があり、寒気が入れば、時期が遅くなってもスケートリンクを造成し、子どもたちに1回でも2回でもスケート滑走体験をさせてあげたいと考えていますが、天候次第では、かなわないことも予想されます。

その場合、体育の授業は体育館でできるものに内容を差し替えて実施いたします。スケート靴を用意していただいた保護者の皆様には大変恐縮ですが、何とぞご理解の程お願いいたします。



## 2月の行事予定

	行 事
1 (土)	
2 (日)	
3 (月)	
4 (火)	出前授業「手話講座」(5年)
5 (水)	放課後学習会 (5, 6年) 出前授業「天体」(4年)
6 (木)	合同スキー学習 (ことり) 出前授業「国際理解」(3年)
7 (金)	漢字検定
8 (土)	
9 (日)	
10 (月)	
11 (火)	建国記念の日
12 (水)	放課後学習会 (5, 6年) Jアラート訓練
13 (木)	ALT3年、6年生中学説明会
14 (金)	ALT6年
15 (土)	
16 (日)	
17 (月)	いなっ子ワールド ALT5年
18 (火)	ALT6年、出前授業「昔あそび」(1年)
19 (水)	放課後学習会 (5, 6年)
20 (木)	市P連臨時総会 出前授業「社会福祉講座」(5年)
21 (金)	児童会役員選挙、人権教室 (6年)
22 (土)	
23 (日)	天皇誕生日
24 (月)	振替休日
25 (火)	参観日1, 4年、給食費口座引き落とし日
26 (水)	放課後学習会 (5, 6年)
27 (木)	参観日2, 5年ことり、中学校のり入れ授業
28 (金)	参観日3, 6年

# がんばる稲田の子



第 67 回中部北海道スケート選手権大会  
ノービスBクラス女子  
第1位 帯広FSC 4年 梅林 留美加



第 22 回北日本チアリーディングフェスティバル  
自由演技競技小学生部門低学年の部 第2位  
帯広十勝チアリーディングチーム 2年 藤代 笑舞



第 70 回青少年読書感想文全道コンクール  
入選 6年 島田 菜羽



第 22 回北日本チアリーディングフェスティバル  
自由演技競技小学生部門低学年の部 第2位  
帯広十勝チアリーディングチーム 1年 野呂 向日葵

これまで、学校だよりに掲載した「がんばる稲田の子」の写真を1階多目的室前の廊下に掲示しています。参観日等で学校にいらっしゃった際に、どうぞご覧下さい。

## 冬季休業中の職員研修

～先生方も勉強します～

### 【給食献立コンクール】

1月8日、札幌で行われた令和6年度北海道学校給食コンクールにおいて、帯広市学校給食センターチーム（本校の栄養教諭 伊藤 笑利 給食センター職員2名）が優秀賞を獲得しました。地場産品を利用して作る事が条件で、帯広チームが考案した献立は、「帯広牛トンすき焼き丼」「まめまめサラダ」「ジャガイモと小松菜の味噌汁」が全道2位を勝ち取りました。この献立が、帯広市の給食のメニューとして出されるのが今から楽しみです。



### 【救急蘇生・AED講習】

1月9日には、帯広消防署の救急救命士の方を講師に迎え、稲田小学校の全教職員で、心肺蘇生法とAEDの講習を受けました。ほとんどの職員が、過去に講習を受講した事があるようでしたが、実際の場面に出くわしたときには、パニックになることも考えられます。何度も研修を受けて、記憶を呼び起こさなければと本校の職員も思いを一つにして、皆真剣に研修を受けていました。



救急搬送を要請し、救急車が到着するまでには、帯広市でも平均9分かかり、心肺停止をしている場合は、この間の心臓マッサージが非常に大切になるそうです。「胸が5センチへこむぐらいに強く押すこと」「1分間に100～120のテンポで」「救急隊員に引き渡すまでは、絶え間なく続けること」「子どもが心肺停止をしている場合については、体内の酸素量が少ないため、できる場合には、人工呼吸を組み合わせること」などを全教職員でしっかりと確認することができました。